

カトリック六甲教会 教会報

2017年平和旬間 日本カトリック司教協議会 会長談話

2017年「平和旬間」にあたって

「世界平和の日」の教皇メッセージは、今年の元旦で50回目を数えました。その中で教皇は、ベトナム戦争最中の1968年に発表された第1回「世界平和の日」の福者パウロ六世教皇のメッセージに言及しておられます。同教皇は、「今（20）世紀の最近数十年を通して、平和が人類の進歩の唯一かつ真の道筋であることが浮き彫りにされました」と述べられました。今年のメッセージで、フランシスコ教皇は、「非暴力」が“平和を築くひとつの方策”であるという考えを説明しておられます。そして「争いにまみれた状況の中で『（他者の）尊厳への深い敬意』を抱き、積極的な非暴力に基づく生き方を実践しましょう」（1項）と呼びかけ、「今、イエスの真の弟子であることは、非暴力というイエスの提案を受け入れることでもあります」（3項）と断言しておられます。

「積極的な非暴力」とは、愛が暴力に打ちかつということです。教皇は、この表現の意味について、マザー・テレサが1979年にノーベル平和賞を受賞した際の言葉を引用します。「わたしたちの家庭には、爆弾や銃は必要ありません。平和のために破壊すべきではありません。ただ一緒にいて、互いに愛し合ってください。……そうすれば世界のあらゆる悪に打ちかつことができます」（4項）。

日本の司教団が、聖ヨハネ・パウロ二世教皇の『広島平和アピール』（1981年）を受けて、戦後50年、60年、そして70年にくり返し表明してきた、戦前・戦中の教会の戦争責任への反省に基づく平和への決意と教皇の今年の平和メッセージは合致しています。

わたしは、憲法施行70年にあたる今年、改めて日本国憲法が保障する平和的生存権を確認したいと思います。平和は軍事では築けません。特に今、近隣諸国やテロの脅威に軍備で応じるのではなく、北東アジアと世界の平和のために真摯な粘り強い対話を実践することを日本政府と国民に訴えます。

安倍晋三首相は、憲法記念日の5月3日に、国会以外の場で、具体的な日程を挙げつつ、第9条に自衛隊の存在を明記したいという考えを示しました。もしそれが実施されるならば、これまで「自衛のための必要最小限度を越えない実力」を有する部隊と説明され、防衛予算や軍事行動に厳しい制約を課せられていた自衛隊は「軍隊」となり、「陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない」と定める第9条第2項が効力を失うことになりかねません。そうなれば、北東アジア、さらには世界の緊張はますます高まるでしょう。

さて、今年は宗教改革500周年でもあります。日本福音ルーテル教会と日本カトリック司教協議会の共同主催で、11月23日に、長崎の浦上天主堂において合同礼拝と対話フォーラム・シンポジウムを行います。長崎は、キリスト教の弾圧と迫害を経験した町でもあり、20世紀の世界の悲劇を象徴する原爆の第二の被爆地でもあるからです。争い分裂していたキリスト教の諸教会・教派が「祈り」と「対話」を通して「対立から和解へ」歩み出す姿を、「対立から平和の実現に向かうモデル」として世界に示すことができれば幸いです。

その長崎にとって、今年はいわゆる「浦上四番崩れ」が始まって150年目、来年は21藩22カ所に流配された信徒たちの「旅」立ち150年目にあたります。司祭との出会いから力を得て、幕末から明治の初めに自らの信仰を表明して立ち上がったこの潜伏キリシタンたちは、日本の歴史において「思想・良心・信条の自由」に目覚め、国家権力が個人の内心にまで侵入してくることにいのちをかけて抵抗した数少ない人々であったとも言えるでしょう。こうした日本のカトリック教会の歴史に照らして、先の国会で強行に採決され、「共謀」を取り締まることで「監視社会」の到来や市民的自由への萎縮効果が懸念される「組織犯罪処罰法改正」にも慎重な注視が求められます。戦前・戦中の時代、国家権力が治安維持法などで人々の言論・思想・信条の自由を侵害したことにより、日本は戦争への道をひた走り、周辺国を含めて2000万人以上といわれる犠牲者を生じさせました。二度と戦争への道を歩むことなく、また、信条の自由をはじめとする基本的人権と人間の尊厳が最大限に尊重される社会を子や孫に残すことがわたしたちの務めです。

世界のさまざまな場所で、テロが頻発しています。自国の利害を優先するあまり、紛争や内戦、難民の増加、人身売買や虐待、環境破壊などのグローバルな問題の解決に、各国が共同歩調をとれない風潮も危惧されます。強い者たちの争いで最も被害を受けるのは、いつも子どもと女性、高齢者など、無防備な人々です。日本においても、東京電力福島第一原発事故の被災者は、生活と人生そのものを奪われた傷に苦しんでいます。基地負担の多くをひとり押しつけられている沖縄の人々も理不尽さを噛みしめています。こうした人々のために祈り、平和で公正な社会が実現するために、わたしたちに何ができるかを考え、実行するようにしましょう。

「地域的、日常的な局面から国際的な秩序に至るまで、非暴力がわたしたちの決断、わたしたちの人間関係、わたしたちの活動、そしてあらゆる種類の政治の特徴となりますように」（1項）と訴える教皇とともに、今年、「平和を実現する人々は、幸いである」（マタイ5・9）というイエスキリストの教えを思い起こしながら平和旬間を過ごしましょう。

2017年7月6日

日本カトリック司教協議会会長

カトリック長崎大司教区 大司教 ヨセフ 高見 三明

（カトリック中央協議会ホームページより）

◇神戸地区平和祈願ミサ・平和旬間行事◇

日時 2017年8月5日(土)13:30~16:00

場所 カトリック神戸中央教会主聖堂

13:30 開会・祈り

13:40 平和についてのプレゼンテーション
「つるにのって・とも子の冒険」(アニメ)

14:10 グループ別分かち合い(意見交換)
日本カトリック司教団著

「いのちのまなざし【増補新版】」
第三章「いのちを脅かすもの」をもとに

15:00 平和祈願ミサ

16:00 ふれあい祭り

*当日は「みなと神戸海上花火大会」の開催日です。
公共交通機関でお越し下さい。



2017年度 第2回小教区評議会 議事録

日時：2017年7月9日 12:00～13:10

- 1、 協議事項
 - (1) 東ティモール・イエズス会聖イグナチオ学院奨学金の募集について
- 2、 報告事項
 - (1) 地区役員会 (5/21) 報告
 - (2) 第3回イエズス会教会使徒職委員会拡大会議 (5/27-28) 報告
 - (3) 東ブロック合同堅信式 (6/11) 報告
 - (4) 財務報告会 (6/18) 報告
 - (5) 7月度神戸地区宣教司牧評議会 (7/2) 報告

第3回小教区評議会 10月8日(日) 12時より 信徒会館第4会議室

《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします。

📁 地区会

9月3日(日) 役員会

📁 中高生会

8月23日(水)～25日(金) キャンプ

📁 教会学校

8月7日(月)～10日(木) キャンプ



《お知らせ》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです。

◆ 社会活動部より

8月は 手芸の集い、炊き出し、ふれあい広場、ともしび会 すべての活動はお休みです。

<ご報告>

7月8日(土)、浦神父様が支援していらっしゃる東チモールの聖イグナチオ学院宛に、10kg相当の文具(段ボール10個分)が船便で教会から発送されました。この文具及び船便代は、昨年度のチャリティバザーの収益金から支払われました。

<感謝>

船員司牧のために皆様からたくさん寄贈していただきありがとうございました。この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。



◆ 典礼部より

朗読奉仕者勉強会の変更について(お知らせ)

8月27日(日)12:00に予定していました朗読奉仕者勉強会は、次の通り形を変えておこないます。

- ・8月から3ヶ月間、毎日曜日10時ミサ前(9:30～9:45の間)に朗読の事前練習を行います。
- ・当日の10時ミサ担当の朗読奉仕者お二人の方は、9:30までに聖堂にお集まり下さい。
- ・事前練習の時は、典礼部担当者が同席させていただきます。
- ・なお、3ヶ月間は10時ミサ担当の朗読奉仕者の方に限って事前の練習を行います。



納涼の夕べ

手をつなぎ 心をつないで 夏祭り!

暑い夏の一晩、飲んで、食べて、遊んで・・・。

大人も子供も、みんなで一緒に

楽しいひと時を過ごしましょう!

ご近所の方もお誘いの上、

どなたでもご自由にお越しください。

駐車場は使えません。

お車でのご来場はご遠慮ください。



“ふっこうのかけ橋” プロジェクト(8月3～7日)

実行委員長 拵井 一義

“ふっこうのかけ橋”プロジェクト実行委員会委員長を務める北須磨教会の拵井一義と申します。神戸地区の皆さまには、プロジェクトへのご理解と多大なご協力を賜りまして心より感謝申し上げます。お蔭さまで、今年度このプロジェクトも6回目を迎えるようになり、福島とのつながりが深まっていますが、一方では時間の経過による風化が顕著になっています。原発事故に対するマスコミの報道も減少の一途をたどり、最近では殆ど目にすることがありません。しかし現状は完全に復興を遂げた訳ではなく、私達の元にニュースとして届いていないというのが現実です。このプロジェクトは“ふっこうのかけ橋”という名称のとおり、福島と神戸に1本の架け橋が生まれ、お互いが交流し協力しあって、少しでも前に進むことが出来ますようにと願って活動を続けています。さらなる皆さまのご理解とご協力を宜しくお願い致します。

(神戸地区だより「つながり」5月号より)

* 今年度は保護者含め22名の参加があります。

プロジェクトのための募金にご協力、ありがとうございました。

8月5日神戸地区平和祈願ミサ後「ふれあい祭り」(16:00～17:00)にて交流予定。





みんなの広場

この日のことども

8月15日。5世紀以来祝われていたという「聖母の被昇天」が教義として宣言されたのは1950年ピウス12世によって、被昇天の必然の前提とも言える「無原罪の御孕り」が教義として宣明されたのはその前1851年ピウス9世によってであった。そして、この日は聖イグナチオ（ロヨラ）が同志と共に初めて誓願を立てたイエズス会の最初の日であり、その中の一人聖フランシスコ・ザビエルが鹿児島で福音をこの国にもたらす第一歩を踏んだ日でもあることを、またこの小教区の司牧はそのイエズス会に委ねられていることを知っている信徒は何ほどか。歴史は今の日々に連なっている。

「もう空襲はないんですね」

戦争と関わりはないだろうが「童貞聖マリア無原罪の御孕り」の大祝日に始まった暗黒の日々が終わった「童貞聖マリア被昇天」の大祝日。この日に聞こえてくる、いわゆる玉音放送が終わった時のカール・ライフ神父の一言。カーキ色の国民服に聖務日祷書を包んだ小さい風呂敷包み、危険を顧みず毎日のように教え子生徒の家を訪ね歩いておられたライフ神父の一言。広島教区の外国人司祭、修道士、修道女をすべて一カ所に集め処分することになっていたと、嘗てこの教会で司牧に働かれた故クラウス・ルーメル神父の回顧談。公には言われないが何人もの事実上の殉教者があった時代であった。

3月の大空襲で空襲警報が発令され、微かな爆音が聞こえるとブンガルテン神父は一人運動場に出て周囲を見張った。ザーッという落下音が聞こえると校舎に駆け込み窓下に伏せ、音が消えると校舎から走り出て周囲を見回った。六中校舎の屋上、周辺にも焼夷弾が落ちた。木造の建物には落ちず、又すべて不発だった。摂理というほかない。ドレーガ神学生（武庫和照神父）が2、3発づつ束ねて登山口の交番へ届けに行った。不発とは言え信管が付いたまま僅かのショックで発火することもあった焼夷弾をである。

時は時々刻々過去になり過ぎ去って行く。今も世界各地に続いているカイン末裔の仕業は何。

ヨハネ 三好

広報部より

このところ、投稿下さっても、広報部に原稿が届かないことが多く起こっています。
 教会メールアドレスは renraku@rokko-catholic.jp です。
 一斉送信で教会のお知らせをしていますメールに返信頂いてもメールは届きませんので
 お気を付けください。よろしくお願いたします。

教会報 9月号の発行は9月3日（日）です。 原稿は8月20日（日）までに教会受付へご提出ください。FAX及びメールでも受付いたします。 （広報部） http://www.rokko-catholic.jp	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会	
	〒657-0061	神戸市灘区赤松町3-1-21
	電 話	078-851-2846
	F A X	078-851-9023
	発行責任者	アルフレド・セゴビア
	編 集	広 報 部